

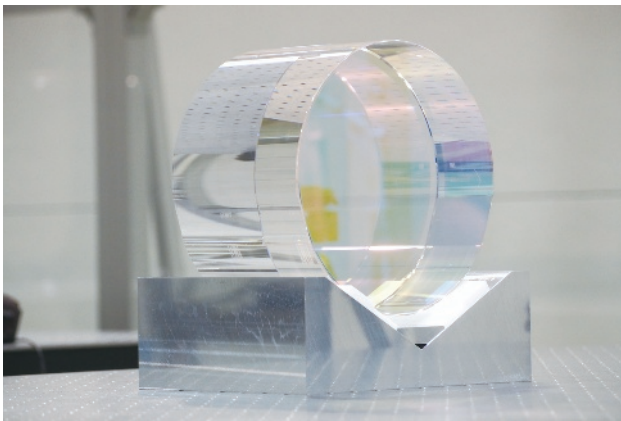
館長よりご挨拶

大阪市立科学館 館長 齋藤 吉彦

感染症との付き合い方がずいぶん緩和されてきましたが、まだまだ予断を許さない状況、マスク必携の中、筆を走らせています。本稿がみなさまの手元に届くころには、明るい世の中になっていることを願いながら。去年もこのようなことを書きました、今年度こそ。

昨日(2月3日)、KAGRA(重力波望遠鏡)のうれしいニュースが流れていました。KAGRAは神岡鉱山内に建設されたもので、新型コロナウイルスの影響で感度を十分に高めることができなかったけれど、ことしの5月から観測を再開、感度を10倍高めて、海外の重力波望遠鏡と協力して、わが国も重力波のデータ収集に貢献することです。重力波は1916年にアインシュタインが予言し、最初に観測されたのが2016年。このデータをたくさん集めて宇宙初期のことやブラックホールを探索するのです。どんな姿が見えてくるかとても楽しみです。

科学館もコロナの影響をずいぶんと受けてきましたが、KAGRAに負けないよう使命「科学を楽しむ文化の振興」の達成を目指して邁進します。去年度は展示改装の基本計画を策定しました。「科学館は1989年に開館、3分の1世紀の活動を総仕上げ、科学を楽しむ文化のハブ拠点に！」と新展示場実現に向けて、職員一同腕まくりをしています。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。そして、今年度も科学館にご期待ください！



KAGRAの心臓部、サファイア鏡
直径22cm、厚さ15cm、重さ23kg (c)ICRR

【編集部よりお知らせ】齋藤吉彦は、3月31日をもちまして退任いたしました。